

産業競争力強化対策特別委員会記録

<p>1 会議の日時</p>	<p>開 会 午前 9 時 56 分 令和4年3月15日 閉 会 午前 10 時 29 分</p>	
<p>2 会議の場所</p>	<p>第1会議室</p>	
<p>3 出席者</p>	<p>委 員</p>	<p>委員長 岩井 豊太郎 副委員長 平岩 正光 委員 伊藤 正博 渡辺 嘉山 小川 恒雄 松村 多美夫 田中 勝士 広瀬 修 恩田 佳幸 山内 房壽 安井 忠</p>
	<p>執 行 部</p>	<p>別紙配席図のとおり</p>
<p>4 事務局職員</p>	<p>主 査 水谷 昭之 主 任 山辺 有紗</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 中間報告について 2 その他	

6 議事録（要点筆記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまから、産業競争力強化対策特別委員会を開会する。

本委員会は、令和3年度・4年度の2年間を下半期として、調査活動を実施しているが、本日の委員会では、その下半期の中間報告について、ご協議いただくため、開催したものである。

早速協議に入るが、最初に文案については、お手元に配布してあるため、書記に朗読させる。

（中間報告案朗読 水谷書記）

○岩井豊太郎委員長

ただいまの中間報告案について、意見はないか。

（意見なし）

○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、案のとおり中間報告を決定したいと思います。異議ないか。

（異議なし）

○岩井豊太郎委員長

異議もないようなので、そのように決定した。

○岩井豊太郎委員長

議題については以上であるが、せっかくの機会なので、委員の皆さんに、参考人の講演や視察など本年度の調査活動を振り返って、一言ずつ、感想をお聞かせいただきたいと思う。

○伊藤正博委員

航空宇宙生産技術開発センターについて、コロナ禍で航空宇宙産業は需要が減少しているが、将来的には航空宇宙産業の人材養成というのは非常に重要であり、役割は大きい。また、センターにおいては、ICTなどの最先端技術を活用し、航空宇宙産業のみならず、幅広いものづくり分野での人材育成をしてほしい。さらに、センターで学んだ人材が、県内企業でノウハウを生かしていただけるように取り組んでほしいと考えている。

○小川恒雄委員

コロナ禍で、子供たちがパソコンを使うようになるなどICTの活用が進んだことやテレワークの進展などプラスの面もある。今後は、本委員会の中でこうしたコロナの影響も調査していく必要がある。

○田中勝士委員

コロナ禍で経済界は影響を受けている。その一方で、利益が出ている企業もあり、税収も伸びている。来年度の本委員会では、コロナが経済に与えた影響、実態を検証できるとよい。

○恩田佳幸委員

12月議会の参考人招致で農事組合法人巣南営農組合から、スマート農業機器に対する補助がないと取り組みが難しいとの発言があったが、積極的にスマート農業分野に参入が進む仕組みを調査していきたい。

また、株式会社オンダ製作所では、原材料の銅を再利用するといった環境問題に貢献できる取組みも行っており、こうした企業を県としても支援していただきたい。

○安井忠委員

参考人招致で話を伺った農事組合法人巣南営農組合の取組みは、ぜひ視察をしたい。

○岩井豊太郎委員長

今年2月に視察を予定していたがコロナの影響で中止となった。来年度は現場を見たい。

○渡辺嘉山委員

参考人招致で話を伺った株式会社オンダ製作所のような優れた取組みをしている企業を県でバックアップできる体制があるとよい。来年度も現場の声を聞けるとよい。

○松村多美夫委員

オンリーワンを目指し付加価値を上げて競争に打ち勝っていく企業は素晴らしいということを感じた。また、農事組合法人巣南営農組合からは、農業機械に不慣れな女性でも、スマート農業機械のオペレーターとして熟練者並みの作業ができると説明があった。スマート農業は大きな初期投資が課題であり、いろいろな経営体が導入できるよう県や国の支援を考える必要がある。

○広瀬修委員

農事組合法人巣南営農組合から、女性が活躍していることを聞いたが、こうした企業は伸びると言われており、来年度は女性の活躍について調査したい。また、人材不足の課題について、学生など若者と企業のマッチングは必要だが、その前に学生などに県内に優秀な企業があることが知られていないため、どうすべきか考えなければいけない。

○山内房壽委員

今後もコロナ禍ではあるが、現場主義で委員会活動を行いたい。また、生産年齢人口が減少し、ICTなどが進んでいくが、機器を扱う人材の確保、育成をすれば、企業も生きてくる。

○平岩正光副委員長

生産年齢人口の減少やそれに伴い国内市場の規模縮小が進むが、岐阜県の現状を把握し、ICT化や高付加価値化といったあらゆる分野における努力で、この難局を乗り越えていただきたい。

○岩井豊太郎委員長

コロナ禍で視察が十分にできなかった。来年は多くの現場を見て、県内企業にフィードバックしていきたい。そうしたことで、我々の活動が、県内企業のお役に立てればよいと日々考えている。今年度の活動などを振り返って、執行部の立場としてご意見いただきたい。

○崎浦商工労働部長

コロナ禍で業界から話を聞く機会が少ない中で情報収集に努めている。現場の方と直接話をして現状を聞くことは、政策を考えていく上で非常に参考になる。また、来年度はコロナにより影響を受けた経済をどう再生していくかが重要である。これに加え、ロシアのウクライナ侵攻による原油高、原材料高が長引くことによる県経済の影響にも注視していく必要がある。その中で、DXや脱炭素の取組みも着実に進めていく必要があり、各産業界は大変な状況を迎える。

こうした中で、県としてどのように支援していくか考えていかななくてはならない。当委員会を通じて意見を伺いながら、県経済の再生に向けて取り組んでいく。

なお、伊藤正博委員からお話のあった、航空宇宙生産技術開発センターについては、現在は、航空宇宙産業中心に人材育成しているが、製造業などものづくり分野へも展開するべく、国にも話をしているところである。

○岩井豊太郎委員長

執行部と一体となって県民のために、有意義な委員会活動にしていきたい。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何かご意見はないか。

(意見なし)

○岩井豊太郎委員長

ご意見もないようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

産業競争力強化対策特別委員会

令和4年3月15日(火) 10:00～
議会議場西棟3階第1会議室

